

社会福祉法人 令和4年8月号



葦の家福祉社会だより

ボランティアさんの活動も再開!

コロナ前は仲間たちの活動や施設の保全、行事の開催など、いろんな場面でさまざまなボランティアさんが関わってくださっていましたが、コロナ禍により、人との接触を限りなく減らさざるをえなくなり、ボランティアさんの受け入れ自体ができない状態が続いていました。

まだ感染が完全に落ち着いているわけではありませんが、仲間たちの「ふつうの生活」を取り戻していけるよう、感染に対しては十分な注意を払いながらも、これまで行ってきたさまざまな制限を徐々に緩和してきました。

屋外イベントでのバザーなど、ボランティアさんにもお手伝いいただきながら、感染リスクの低いイベントから徐々に参加し始め、定番活動である「地域アルミ缶回収」も6月から2年ぶりに福岡大学のボランティアさんに来ていただいています。

バザーの応援に来てくださったボランティアさんから「やっと参加できるようになり、仲間と会えて嬉しい」という声を聞くと、こちらもなんだか笑顔になってしまいます。

マスクを着用できない仲間も多く、完全にコロナ前の状況に戻るのにはもう少し時間がかかりそうですが、葦の家らしい「ウィズ・コロナ」の形を探しながら、地域活動に積極的に出ていけるよう、さまざまな取り組みを行っていきたいと思います。



地域アルミ缶回収



施設内清掃



バザー出店



施設内喫茶店



わはは祭り

いろんなボランティアさんがいろんなお手伝いをしていてたんだね!

※写真はコロナ前のものもあります





ボランティアさんについてみました！

コロナ禍中でも、手芸品加工や施設外周り清掃など、直接仲間と接することはないけれども、自宅や屋外でできるボランティアを申し出てくれる方々もたくさんいらっしゃいました。

今回、この手芸品加工や、最近再開し始めたバザー出店のボランティアを行ってくださっている岡田さんに葦の家でのボランティア活動と、コロナ禍による活動への影響についてお話をうかがいました。



Q. 葦の家でボランティアをすることになったきっかけは？

傾聴ボランティアサークルに入っていて、そこのメンバーから紹介されました。学生時代に障がい者の生活介助ボランティアをやっていて、機会があればまたやってみたいと思っていたところでした。

Q. 葦の家や仲間たちの印象はどうでしたか？

葦の家は、個性が尊重され、一人一人がとても大切にされている所という印象です。仲間はみんなエネルギーがすごい！という印象ですね。

Q. ボランティア活動で楽しいと感じているところは？

さまざまな個性や考え方、優しさや思いやりと出会うことができます。そして、自分が少し役に立ったかなと感じた時ですね。（自己満足ですが…）

Q. コロナ禍によりボランティア活動がなかなかできなかったことや、これからのボランティア活動について感じていることがあればお聞かせください。

現在、葦の家やえーる油山の手芸品加工のお手伝いをしていますが、このような形でも繋がりを持つことができることが嬉しいですね。コロナが収束したら、また以前のように活動できることを楽しみにしています！



～ 仲間たちにとって、とても大切な存在です ～

バザー出店では、トイレ介助などで職員が外れる際に店番をしてくれる方がいないと、介助の必要な仲間は参加できないなど、仲間の活動の幅を広げるためには、お手伝いしてくれる方の存在がなくてはなりません。わはは祭りや宿泊旅行などの行事にいたってはボランティアさんの存在なしには実現しません。そして、職員以外の方が活動に参加することは仲間たちにとっても良い刺激になりますし、一緒に活動することにより、お互いを知り、共に社会の一員であることを理解できる良いきっかけにもなります。



直接仲間たちと触れ合う活動以外にも、施設周りの草取り、手芸品の加工、アルミ缶の提供、七夕の時の笹枝の提供など、いろんな形でさまざまな方がボランティアとして仲間たちの活動に協力して下さっており、仲間たちにとって、なくてはならないとても大切な存在となっています。





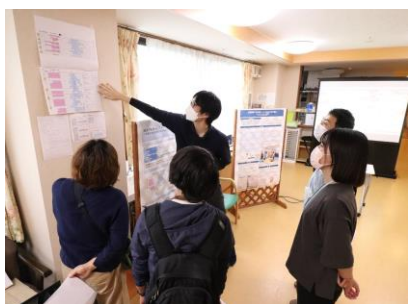
新しい仲間が入所しました！

4月から葦の家に新しい仲間1名が加わり、4月9日（土）に入所式が行われました！式では仲間の会代表のYさんから、あたたかいお祝いのご挨拶が伝えられました※、(*´∩`*)※、仲間たちと一緒に、たくさんのいろいろなことを経験できるといいなあと思っています☆



法人実践研究発表会を開催しました

5月26日（木）・27日（金）に、コロナ禍の影響で延期していました実践研究発表会を開催することができました。密をさけるため2日に分けて行い、ポスター形式による展示と、時間をずらして担当者が個別説明するという形をとりました。参加者も職員・家族に絞って案内しました。



参加者からは「実際に所属の職員さんから発表が聞け、仕事の内容や、やりがいについて聞くこともできてよかった」「相談支援など、普段聞くことがない業務のことを知ることができた」といった意見が聞かれました。会場では「WEB わはは祭り」を大画面で上映し、仲間たちの普段の活動の様子を知ってもらうこともできました。次回は地域の方々もお呼びして、法人の取り組み、仲間たちのことを知ってもらえる発表会にできればと思います。

葦の家とえーる油山の夏の新作ができました！

葦の家とえーる油山ではそれぞれ夏の新作を発売しました。葦の家ではTシャツが2種。王の風格を感じさせるフクロウをデザインした「山の王」と、胸にワンポイントの魚をデザインした「ポワソン（フランス語で魚の意）」。

えーる油山ではモンスターをデザインした新柄のフェイスタオル。他にもアロマストーン、ポムポーチ、フェルト商品など。どれも個性豊かな商品となっています！各事業所やバザーで販売していますので、お近くにおいでの際はぜひ手に取ってご覧ください！



←葦の家「山の王」Tシャツ

えーる油山 今治フェイスタオル→

※商品についてのお問い合わせは各事業所までお願いします。

葦の家：092-834-3361

えーる油山：092-834-8900

※限定生産ですので売り切れの場合はご了承ください。



令和3年度事業報告

～ 昨年度の法人・事業所活動を振り返って ～

昨年度も、新型コロナの感染拡大により、わはは祭りをはじめとする行事は軒並み中止となり、職員、利用者の罹患による事業停止もありました。しかしながら、ワクチン接種の促進、リモート会議の活用、罹患時の速やかな判断・対応など、感染拡大抑止、事業継続に向けた取り組みなどにより、一部活動制限は受けながらも、クラスター発生などにより事業を大きく停滞させることはなく、利用者へのサービスを継続してきました。また、城南区基幹相談支援センター公募にも応募し、令和4年度から5年間の継続受託が決定しました。

法人の第4次中期事業計画の中軸であった、人事・組織、給与体系の見直しや、リーダー層の育成には思うように取り組めず、ほとんど結果が残せていません。

福祉充実計画により葦の家ではエレベーターの改修、防音壁の設置などの施設整備を実施しました。また、地域の方の情報提供により、樋井川に土地取得ができ、ここ数年の課題となっていたえーる油山の移転計画にも一定の見通しをつけることができました。

法人全体では、職員の正規化率の上昇、新型コロナによる事業稼働率の減少、職員への休業補償、コロナ対応特別手当の支給、処遇改善手当の対象外職員への持ち出し支給などにより人件費比率が高まり、特に地域生活支援事業においては大きな事業負担となっています。

令和3年度 決算報告

資金収支計算書			
令和3年4月1日～令和4年3月31日		(単位:千円)	
収入		支出	
科目	金額	科目	金額
事業活動収入	514,578	事業活動支出	466,449
施設整備等収入	2,977	施設整備等支出	126,369
その他の活動収入	10,560	その他の活動支出	10,027
		当期資金収支差額	-74,730
合計	528,115	合計	528,115

事業活動計算書			
令和3年4月1日～令和4年3月31日		(単位:千円)	
収益		費用	
科目	金額	科目	金額
サービス活動収益	510,052	サービス活動費用	480,623
サービス活動外収益	4,526	サービス活動外費用	4,164
特別収益	2,949	特別費用	2,776
		当期活動増減差額	29,964
合計	517,527	合計	517,527

貸借対照表			
令和4年3月31日現在		(単位:千円)	
資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	342,339	流動負債	28,396
固定資産	466,684	固定負債	48,747
		純資産	731,880
資産の部合計	809,023	負債及び純資産の部合計	809,023

令和3年度の法人決算書をご報告いたします。

なお、決算内容につきましては、施設にて閲覧することができます。



令和3年度の事業報告書は法人のホームページ、決算関係書類はWAM（福祉医療機構）の「財務諸表等電子開示システム」にて公開しています。



葦の家（生活介護）

待望のバザー再開！

自粛していたバザー販売を再開して3ヶ月が経ちました。定期で販売させていただいているハローデイ・ボンラパスさんだけでなく、福岡市植物園や油山市民の森、公民館、城南区役所でのバザーに参加しました。再開しての一番の変化は、参加した仲間の意欲 up です。

仲間で最高齢の山下さん(71歳)は、毎日の出勤が少しくついと話されることがありました。しかし、仲間の代表として植物園と市民の森のバザーに参加されてからは、病院受診の日も休まず、遅刻してでも出勤したいと話されるようになりました。特に市民の森(ひばるマルシェ)ではキッチンカーも多数出ているので、販売のやりがいだけでなく、他のお店での買い物も日頃のない楽しみとなったからだと思います。また、コロナ禍では遠慮していただいていたボランティアの皆さんとの再会も、嬉しさのひとつでした。

これまでできなくなっていたことが、少しずつですができるようになってきている喜び、その喜びを大切にするために、他の仲間たちにも味わってもらうために、日頃の感染対策をしっかりと、みんなで喜びを分かち合えたらと思います。

(サービス管理責任者：岡村)



えーる油山（多機能型：就労継続 B 型+生活介護）

暑い中がんばっています！

毎月2か所の公園の清掃を市の愛護会活動として請け負っています。「愛護会活動」とは、公園の清掃・除草等を行うボランティア団体を「公園愛護会」として結成し、市民の共有の財産としての公園を日常的に管理するものです。えーる油山は、樋井川4号公園、東油山公園を担当し、ごみ拾い、草むしりや遊具の点検などを行っています。月に1度、市から指定されている定期清掃ですが、えーる油山では毎週清掃を行っており、よりきれいにできるよう努めています。

公園清掃だけでなく、道中のごみも拾っています。その姿を見て、「おつかれさま」「ありがとう」と地域の方から声をかけられることもしばしばです。感謝の言葉をかけられることで、この仕事に誇りをもつ仲間の姿があります。

梅雨明けも早く、酷暑の夏となりますが、こまめな水分補給と休憩をとりながら、地域活動もがんばっています。掃除道具をもって歩いている仲間を見かけたらぜひお声掛けください。

(支援員：山内)



特別支援学校放課後等支援事業（屋形原・若久）

放課後等支援事業 人気遊び BEST3



第1位

屋形原どんぐりルーム 「サイバーホイール」



初めてどんぐりルームに来られた方は、必ず皆さん驚かれますε(´・`´)3。乗ったり転がしたり…大人気の大型遊具です！

若久たんぽぽルーム 「しゃぼんだま」



たんぽぽルームの中庭に出れば、すぐに遊べる「しゃぼんだま」♪今も昔もかわらず、みんなに愛される遊びですねεε(´・`´)63

第2位

どんぐりルーム 「くみくみスロープ」



たんぽぽルーム 「三輪車」



第3位



どんぐりルーム：
「砂粘土（キネティックサンド）」

たんぽぽルーム：
「BIG オセロ返しゲーム」



以上、ルームの人気遊び BEST3 でした！

どんぐりルーム・たんぽぽルームにお越しの際は、ぜひ子どもたちと遊んでいってくださいねε(´・`´)*ε♪～

(責任者：是永)

ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ

ショートステイでのディナータイム♪

日中活動を終え、ひと休みする利用者が楽しみにされているのが「ディナータイム」です。

ショートステイりどには調理環境がないため、食事のテイクアウトを届けてもらっています。そこで、自宅と違った食事を楽しみに来られる方がいます。同じメニューを選択しがちな方が回を重ねるうちにその日の気分でさまざまなメニューを選び、食事をより楽しまれている様子も伺えます。





一方で、工夫が必要なこともあり、偏食で白米や野菜が苦手な方に対しては、事前情報を受け、ふりかけを持参してもらったり、ハンバーグソースと副菜などをご飯と混ぜるアレンジをすると食べやすくなったりする方もいます。

また周囲が気になってしまうため1人で落ち着いて食事できるような配慮が必要な方、こだわりがあり、ある物の配置を本人の思う通りにセッティングしてから食事を始める方などもあります。

利用者1人ひとり違う個性を尊重しながら楽しいディナータイムになるように日々サービス提供しています。それぞれの生活場面を通じて、りーどにいる時間が楽しかったと思えるようになればと思います。

(支援員：高野)

以前、貯めた工賃で夕食代を支払うこと、メニューを選び食べることを誇らしくされている利用者がいました。私はショートステイサービスも社会参加機会であることだと知り、社会体験として積み重ねる事、またこのような体験を別の社会参加場面で発揮してもらいたいと思いました。高野支援員のエピソード紹介で職員として大事なテーマに気づかされました。小さな社会体験を積む場所として活用していきたいです。

(主任：臼井)

相談支援（基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ）

城南区障がい者基幹相談支援センターのご紹介！

第1回「区障がい者基幹相談支援センターって何？どんな人が相談できるの？」

城南区障がい者基幹相談支援センターは、障がいに関するお困り事について、地域に根差した身近な相談窓口として平成29年4月に開所しました。今年で6年目に入り、新しい職員も増えて現在は12名体制(相談補助員、事務員含む)で業務にあたっています。

区障がい者基幹相談支援センターは市内各区に1～3カ所、市内で計14カ所設置されており、複数箇所ある区では第1、第2と名称に入っています。各センターには担当校区が決められており、ご相談いただく際にはお住まいの地区を担当するセンターが窓口になります。城南区では1カ所のみでの設置となっており、葦の家福祉会がその事業を受託しています。

センターでは、ご相談を受けた際に、行政窓口や、専門の相談窓口、地域で障がい福祉サービスを提供されている事業所、医療機関など、様々な関係機関と連携しながらお困り事を解決するお手伝いをさせていただきます。

当センターにご相談いただく方は様々です。障がいのあるご本人さん、そのご家族、ご友人や知人、ご近所にお住まいの地域住民の方、障がいのある方を支援されている関係機関など、障がいに関する困り事やお悩みを抱えておられる方、どなたからのご相談もお受けすることができます。こんなことを相談していいのだろうかとお悩んでいる方もまずはお電話をいただければ、一緒に考えさせていただけるかと思えます。次回はご相談をお聞きする時の段取りや方法についてご紹介させていただきます。

(相談支援専門員：佐藤)

グループホーム（すてっぷ・すまいるホーム）

暮らしに必要な支援とは

ゴールデンウィークの仲間全体帰省日に、グループホーム職員で集まって「私たちが普通に生活していく中で必要なこと・ものとは」をテーマに研修を行いました。

3班に分かれ、KJ法で職員自身の生活に必要な行動やものなどを出し合い、支援領域をまとめました。制度・手続き（手当や育児に関するもの）があがった班や、プライベートや趣味を重視した班など、班ごとに特色があり、職員間の価値観の違いを知ることができました。

グループホームでは職員が24時間交代で勤務を行っており、集まって会議や研修することがなかなかできないため、今回は職員間で「ふつうの暮らし」の共通認識を作る良い機会になりました。

今後は保護者と一緒に、親なきあとの仲間の生活を守る制度や、成年後見制度についても学習していきたいと考えています。

（支援員：白倉）



決算を終えて

6月25日、定時評議員会を終えました。令和3年度の決算では、施設移転用地の取得により社会福祉充実計画を終了します。事業面では、新型コロナウイルスの動向をみながら地域交流活動を少しずつ再開できればと考えています。えーる油山の移転・新築は、設計事務所が決まり、令和6年4月開所に向け準備に入りました。樋井川流域サミット（アート、伝統文化、福祉、街づくりなどの分野で活動している地域のネットワーク）をはじめ地域と連携し、環境面にも配慮し、地域の公民館のように誰もが利用できる新しい地域福祉のモデルとなるような施設になることを願っています。他方で、法人の懸案である障がいの重い人たちや、在宅の方々の地域生活支援、利用者・家族の高齢化、親亡き後の課題にも向き合っていかなばなりません。児童の分野では、若久特別支援学校放課後等支援事業保護者会の要望にも応え、専用棟建設の実現に向け福岡市に働きかけていきます。決算を終え、再度、利用者、家族、地域の願いに沿った事業を推進していきます。

理事長 友廣道雄

社会福祉法人 葦の家福祉会だより 令和4年8月号

発行日 令和4年8月1日

編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会

〒814-0153 福岡市城南区樋井川4丁目1-17

〈代表〉Tel 092-873-7481 Fax 092-834-3362

E-mail asinoie@blue.ocn.ne.jp

URL <http://www.ashi.sakura.ne.jp>